



Executive Interview

エグゼクティブ
インタビュー

no.34

このコーナーは神奈川トヨタのお客様である経営者の方にお話を伺うコーナーです。

桜井塗装株式会社 代表取締役
一級建築施工管理技士

桜井 康二 様

桜井塗装株式会社の創業は、今から約80年前の1935(昭和10)年。祖父の代に起業した塗装業を継承し、三代目の代表取締役として、小田原市を拠点に活躍されている桜井康二氏にお話を伺いました。

■モノ作りの原点は、幼い頃のプラモデル製作

——会社を継ぐことは決まっていたのですか？

私は次男で上に兄がいますが、兄は兄で別の道を歩いていまして、私は大学の建築学科を卒業後、ゼネコンに8年間勤めていました。15年前の30歳の頃、父から「会社を継いでみないか」と持ちかけられ、桜井塗装に入社した、というのが経緯です。



——お兄様も同じ建築業界でご活躍だったか。

兄はアメリカ・カリフォルニア州で資格を取り、黒川紀章事務所で働いた後、独立して小田原に戻り、事務所を立ち上げました。今は同じビルの2階で設計事務所をやっています。

——家業を継ぐことに抵抗はありましたか？

兄が好きな道を歩んでいますし、自分も小さい頃から父の仕事を見ていた結果、建築業界で働くことを選んだので、いずれはやってみたいと思っていました。

なんとなく「30歳の時点で手がけていた仕事が、自分の生涯の仕事となるだろう」と感じていました。もともとモノ作りが好きだったので建築業界を選んだという面もあります。モノを作ることは小さい頃から好きで、小学生の頃は自動車のプラモデルを友人たちと工夫しながら作っていました。中学生になって

からは、父や従業員に連れられて現場で手伝いをしました。プラモデルは縮小されていますから塗装も小さいですが、現場は実物大ですから、その分、とても楽しかったんです。たくさんの業種が集まって一つの建物を作り上げる、共同作業の面白さもそこで味わいました。

——塗装には様々な専門があるのだとか。

そうなんです。祖父の代から当社がやっていたのは塗装業で、一般住宅やビルなどの建物はもちろん、歩道橋や鉄橋など公共交通に関係する施設の他、工場の床や配管などにも塗装します。これらは現場に行き、足場などを組んで塗ることになります。

——塗装以外の分野も行っているそうですね。

ベランダや屋根に施して雨漏りを止めたりする防水の分野を手がけています。窓の隙間を防ぐコーキングもこれに含まれ



建築業界は特に信用が大切。 お客様のためになることを真摯に実行。

ます。これで塗装と防水で外装を一手に引き受けることができます。防水分野は私の代で始めたことで、2002（平成14）年からですから、もう14年くらい経ちます。

—入社後、すぐに手がけたのですか？

はい。前職で現場の事情はわかっていたから、塗装だけでは幅が狭いと思い、防水を含めた外装を一手に引き受けたいと考えていました。幸い、他で働いている間に防水工事を手がける資格も有していたので、桜井塗装に入社してすぐ、防水工事の建設業の許可を取得する行動に出ました。今では小田原市をはじめとした近隣市町村、神奈川県などから、塗装と防水の仕事をいただいています。

—先代と比べられたりしますか？

家業を継いだ宿命として、当然あります。でも逆に「耳の痛いことも言ってくれてありがとう」という気持ちでいたいと思っています。人に注意するのめされるのめ、どちらも嫌なものです。そんな嫌な思いをして、あえて言ってくれたということはそれだけ心配してくれているということだからです。ちゃんと見てくれていてありがたい。そう感謝しないとイケません。

—建築現場では安全第一の文字をよく目にします。気をつけていることは？

可燃剤を使用していますので、火事を含めた事故にならないよう、安全最優先で行っています。作業前に必ず作業員の顔色を見て体調を把握し、ミーティングで安全性の確認をします。年に一度の従業員の健康診断は必須です。また、環境に対しても注意を払わなければなりません。

従業員の態度などを含めた現場、周辺への配慮。それに、お客様への説明です。よくペンキはにおうと言われますが、今の住宅は水性塗料を使用しますので、ほとんどにおいはないのです。こういったことも丁寧に説明していきます。

■お客様からの信用にこえて 真摯な対応を

—充実感を感じるのめ、どんな時ですか？

お客様から「きれいになった」と言われた時です。新築物件が出来上がった時も喜びを感じます。どの業種でもそうでしょうが「ありがとう」と感謝されると、やはり嬉しいものです。塗装や防水は、定期的にメンテナンスしていくものですから、出来上がりが終わったというわけではありません。むしろ、その先の方が大切。長きにわたり我々を信用してくださり、任せてくれたのですから、仕事をきちんと果たして喜んでいただかなくてはと思っています。



桜井塗装株式会社

社団法人 日本塗装工業会会員
社団法人 神奈川県塗装協会会員

〒250-0005 神奈川県小田原市中町1-15-13
TEL : 0465-23-3595

—建築業界での信用は大切なものめですか？

車だったら実物が見えますが、我々は最初、見積もりというカタチでやりとりますので、どうしても形がはっきりしません。形が定まっていないものを、会社や人を信用して契約するわけですから、仕事でお返ししなければなりません。信用を築くことは大変ですが、なくすのは簡単。この業界で信用をなくしたら、それきりです。ですから、お客様のためになることを常に考え、誠実に、真摯にやっていかなければなりません。

—それが地域への貢献ということにもつながるのめですか？

企業として、人や環境に配慮することはもちろん、個人としてもできるだけ地域に貢献したいと思っています。小田原市塗装技術協会の副会長をやらせてもらい、公共施設の塗装や予算に関するのアドバイスをしたり、休みの時はロータリークラブでの奉仕活動に参加しています。兄も私も、一度小田原を出たにもかかわらず、結局戻ってきてしまいましたし、「小田原愛」が強いんでしょうね、きっと。

<インタビューを終えて>

プラモデル作りに熱中した幼い頃の話では、同年代の取材スタッフと、大いに話が盛り上がりました。作り上げる喜びを原点到に、家業の手伝いなどを楽しんで行っていたことが、今につながっているようめです。7年前に亡くなったお父様のことを尊敬し、「今は建築の一部を請け負う立場だが、将来は兄の設計した建物を一手に引き受けたい」と、照れながら夢を語る姿は、とても輝いていました。